野生動物保護募金 Wild animal fund

平成14年度 野生動物保護活動助成事業
「ヒナモロコの保護・増殖・放流活動及び生息・放流地の環境保全活動」

―抜　粋―

ヒナモロコ里親会実行委員会

〔ヒナモロコのプロフィール〕

ヒナモロコAphyocypris chinensisは、コイ科ハエジャコ亜科ヒナモロコ属の小魚で、全長6～7cm程度で、北部九州の流れが緩やかな小河川の淀みや細流・水路・浅い池などに生息するが、国外では朝鮮半島、中国大陸東部に分布している。1994(平成6)年11月に福岡県浮羽郡田主丸町巨瀬川南側の小さな水路で80尾余が再発見され、田主丸町が町天然記念物に、水産庁が絶滅危惧種に、環境省が絶滅危惧・A類に指定するなど、絶滅から救うための保護・増殖活動が行われている。地元の田主丸中学校は、ヒナモロコの保護増殖活動及びヒナモロコを通した自然環境の学習を選択授業の中に取り入れている。

〔活動の実績〕

1. ヒナモロコ放流会

産卵･飼育等の増殖活動を通じて増やしたヒナモロコ5,793尾を池、堤、水路の３地点(具体的場所は公表を避ける)に放流した。

・ 平成14年 9月15日(日)　放流数　3,843尾
・ 平成14年10月20日(日)　放流数　1,950尾

2. ヒナモロコ里親会の会合など

11月24日　里親集会(ふるさと会館）：前年度の総括と反省会、年度計画の打ち合わせ
1月19日　準備･打合せ会(田主丸中学校)：年度計画・実施打ち合わせ
2月23日　里親集会(田主丸中学校)：ヒナモロコ親魚の交換（会員同士で半数ずつ交換した）
3月10日　第5回ヒナモロコ里親任命式
3月23日　里親集会(田主丸中学校)：ヒナモロコ親魚の交換及び池の生態調査
4月20日　里親集会(田主丸中学校)：自然水路の生態調査、飼育報告会-飼育記録の発表
5月25日　里親集会(田主丸中学校)：堤の生態調査、飼育報告会
6月25日　里親集会(ﾔ筑後川発見館1くるめウス)：飼育報告会及び講習会
講師 木村清朗(元九大教授) 大原健一(琵琶湖博物館)
7月20日　里親集会(田主丸中学校)：飼育報告会
8月24日　里親集会(田主丸中学校)：自然水路の生態調査
9月21日　里親集会(田主丸中学校)：水辺の教室（浮羽ロータリークラブの後援）

3.　ヒナモロコ通信の発行

会員の情報交換及び一般へのPR用資料として、原則として毎月発行している。

助成期間中の発行状況は次のとおり。（ ）内は発行年月

No17(2003.2)、No18(2003.3)、No19(2003.4)、No20(2003.5)、No21(2003.6)、

No22(2003.7)、No23(2003.8)、No24(2003.9)、No25(2003.10)、No26(2003.11)

〔今後の課題〕

現在、実質的な増殖活動を行っているのは「ヒナモロコ里親会」だけといっても過言ではない状況である。しかし､当会の運営費は、もっぱら会員の会費のみで、その大部分が通信費となり、えさ代等は会員個人の負担となっている現状であり、貴協会からの助成により大いに助かっている。

本年は5,600尾余のヒナモロコを放流することができたが、私たちの調査では、放流場所での自然繁殖の様子は見られるものの、それ以外の場所での生息は確認されず、生息域の拡大には至っていないのが現状である。従ってヒナモロコは放流した分を除くと、会員が自宅等で飼育している稚魚と親魚10,000尾(推定)が生息しているすべてになる。

また､近親交配に近い状況にあり、遺伝子の偏り等を憂慮していたが､大原健一氏(琵琶湖博物館特別研究員)の研究によると、遺伝子の多様性は確保できることがわかった。毎年、親魚を交換していることが幸いしているようである。

今後の課題として、ヒナモロコが自然繁殖していくような放流の工夫と新たな放流場所の確保、放流場所を含む地域環境の保全対策が重要である。その具体的な取組みを専門家の意見等を取り入れながら進めていく必要がある。

[閉じる]